# 第１回協働推進委員会記録

| | |
|---|---|
| 日　時 | 令和３年７月 27 日（金）　18:30～20：30 |
| 会　場 | 豊明市役所新館１階　会議室６ |
| 出席者 | 委員：三矢勝司、根尾文彦、原智子、兼子幸夫、安井昌代、田内祥子、浅田定弘、松本信之、川津昭美（以上９名）<br>豊明市：市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員（3 名）<br>傍聴者２名 |

議　事

１　課長あいさつ

２　委嘱状交付

３　自己紹介

４　委員長・副委員長の選任

委員長の選任について、三矢委員が推薦され、承認された。

副委員長として、三矢委員から根尾委員が指名された。事務局から根尾委員に意向を確認したところ、快諾していただいた。

５　前回のふりかえり

〇事務局より会議録（資料１）に基づき説明

・地縁団体とはどのようなものか

→区・町内会、老人会、子ども会のように、その地域の住民で構成される団体である。

・区や町内会は地域団体なのか？市民団体なのか

→地域団体であるが、市民団体は社会や地域のために活動しているため、広い意味で市民団体に地域団体も含まれる。

６　協議事項

◆第２次協働推進計画の中間見直しについて

（１）概要と中間見直しスケジュール

〇事務局より資料２に基づき説明。

（２）調査仮説/市民意識調査アンケート

〇事務局より資料３,（別紙）調査設計図,アンケートに基づき説明

（３）地縁団体・市民活動団体ヒアリング

〇事務局より資料４に基づき説明

―　質疑・意見交換

・アンケートについて、第１次協働推進計画の基本理念と調査設計図の「目指す姿」がマッチしていないと感じる。調査設計はネガティブからくる質問に感じる。一体感、共感を得られる「目指す姿」の方がよいのでは。

→あくまで事務局が仮に設定した案なので委員会で意見をいただきたい。

・課題がない街が良い街、というわけではない。「こうだったらいいよね」が掘り起こせるといい。ヒアリング調査で「こういうことがやれてればいいよね。」を聞くと良いのでは。

・区長会「区の課題は何か」という話をしたとき、区や町内会が一体感を持ってやっていくには夏まつりが大事だという話になった。「安心・安全・防犯」も大切だが、まつり（一体感）も大事だと思う。

・ヒアリング調査では「課題解決のためにどういうことをやっているか（やっていくべきか）」を聞くとよいのでは。

・課題をある程度見出すのも大事、次のステップへつながる。

・課題とは、ビジョン/足元にあるもの、の２とおりあると思う。

→足元の問題とこうなったらいいというビジョンの差を課題として考えています。

・ヒアリング調査はインタビュアーが大事、掘り下げる姿勢を見せて。

・ヒアリング調査の対象、新しいところもいいが古い団体（活動歴 10～20 年）も聞くべきでは。課題をもって取り組みを行ってきた結果や事業継承問題が分かるかもしれない。

→活動団体リストより対象を検討する。

・アンケートについて、何故３０代以下は対象じゃないのか。５年前に比べ外国人住民が増えたり、ネットが普及したりするなど環境が変わっている。若者の考え方は全然違う。その世代も対象にするべきだったのでは。

→４０才以下は仕事や子育てなどで、地域活動や市民活動の参加は難しいと判断した。アンケート送付部数１，０００通という限りの中で統計がとれるよう設定した。

・３０代、４０代女性でも町内会長をやっている。活動も活発だし、この世代の意見も大事なのでは。

・若い世代が協働に興味・関心がないわけではない。むしろあるのではないか。

・町内会班長の仕事として、社協や日赤等の募金を回収に行くが、若い世代は払ってくれない。関心は薄いと感じる。

・若い人は存在意義を求めている。町内の意義を感じていないのでは。

・２０代、３０代の意識の変化も大事だが、アンケートでいうと４０～５０代を拾うというのも大事。

→若い世代で活動している人をピンポイントでヒアリングする。

・２０代、３０代でやる気のある人に集まってもらい、「豊明市をこうしていこう！」という会議を開いてみるなど、若い人の意見を違う形で拾う必要があるのでは。

・身近で、相談先が分からないという事例があった。相談先が分かれば行動できることもある。相談方法が簡単であればなおいい。今の時代ならスマホで簡単に相談できるなど。

7　報告事項

◆多世代交流館（仮）の進捗について

〇事務局より資料５に基づき説明。

・多世代交流館についての概要がよくわからない。どのような施設なのか。

・これまで中間支援機能の構築のため、拠点検討委員会、市民交流センター運営委員会等の活動をしてきた。４月から市民交流センターの運営を NPO 法人創 Seeds が担うこととなったが、多世代交流館は企業に指定管理をするという話、市民交流センターはどうなってしまうのか。もっと先を見越して方向性を決めてなかったのか。指定管理業者によって、より良い施設になればよいが。

→唐竹小学校という大きな施設の管理運営となると施設整備なども行える事業者でなくてはいけない。

・協働推進委員会では、市民活動を活性化するためには協働主体となる中間支援組織が拠点に必要ということで進めてきた。

→中間支援組織は唯一無二ではない。「高齢者の困り事🔄サポーター」をつなぐ役割のちゃっとや「教えたい🔄学びたい」をつなぐ役割の生涯学習課の事業、市民協働課なら分野や制度を越えた活動を繋ぐ役割がある。

・指定管理はやむを得ないのか。市民との接点を作ってきた交流センターの活動が活躍できる場を用意して欲しい。

→豊明市は若い世代の市民活動や子育て世代の活動のコーディネート機能が弱い。NPO 法人創 Seeds にはそこに期待したい。

・今まで、市民活動🔄地域活動はつながりが薄かった。しかし、最近ではつながりが増えてきている。つながりのための情報発信、底上げをしていくための中間支援組織が必要である。

8　その他

第２回協働推進委員会は、会議内容を調整後、改めて日程調整する。